

2050

美濃加茂市

新庁舎整備 基本計画

かわらばん vol.1

西暦2050年頃の市民生活や行政サービスを予測しつつ、未来のまちづくりにとってふさわしい新庁舎整備を考えていきます。

美濃加茂市の新庁舎整備の経緯

美濃加茂市役所の本庁舎本館は、昭和36年(1961年)に完成して以来、57年間にわたって利用されています。しかし、本庁舎は、老朽化や狭あい化等の問題を抱えています。そこで、市は平成30年3月に、今後の新庁舎整備の方向性を示す「美濃加茂市新庁舎整備基本構想」を策定しました。

平成30年度からは、この基本構想を基に、新庁舎の整備地・整備手法・機能や規模等に関してより詳細な事項を記載する「美濃加茂市新庁舎整備基本計画」の策定にとりかかっています。この基本計画は、「美濃加茂市未来のまちづくり委員会」において議論されています。

第1回・第2回 美濃加茂市未来のまちづくり委員会を開催しました

第1回委員会(8月2日)では、各委員が、美濃加茂市のまちづくりや新庁舎整備について意見を述べました。

第2回委員会(9月7日)では、新庁舎の4つの候補地を1つにしぼるための指標について、議論を交わしました。



海道委員会会長(左)へ渡す諮問書を読み上げる伊藤市長



若い人たちの意見が反映できるように計画づくりを進めて、実際に若い人が来てくれるような市役所を目指すことが重要かと思っています。



民間事業者を活用することが大切。また、公共交通を活用してみんなが幸せに暮らせるためにはどうすべきかについて議論していきたい。



あい愛バスについては、本数は増えたが、利用者を増やすための検討の余地はまだある。誰もがどこに住んでいても容易に移動できるような公共交通を整備することがポイントである。



人口減少、生産年齢人口減少、高齢化率増加、税収は増えない、こういった現実を踏まえてまちづくりを考えないと、その計画は夢物語に終わってしまう。庁舎については「みんなが集まれるね」と言われるようなものにしていきたいです。



財源の問題をしっかりと見据えて議論をしていかないといけない。また、市民が利用しやすいような公共交通との兼ね合いも重要になる。また、発想を変えて市役所を駅から離れたところに持っていくのも選択肢のひとつ。



まちづくりについては、私を含めて受け身である市民が多い。まちづくりを自分ごとにしてできる人が増えるとよいです。



美濃加茂は、エリアごとにより特色がある。人や地域文化の交流・連携などのネットワークをよりよくするための新庁舎を考えていきたいです。



今回、まちづくりと庁舎整備を一緒に考えることで、まちの人の流れや、まちのイメージを変えることができる大きなチャンスなので、それを期待して議論していきたいです。



新庁舎は、子育て家族も高齢者も誰もが気軽に立ち寄り、相談できる拠り所となると良いですね。災害時の対応も含め、まちに安心と活気をもたらす新庁舎とまちづくりについて考えたいです。

委員の紹介(敬称略)

海道清信 (名城大学 都市情報学部教授)

生田京子 (名城大学 理工学部准教授)

須藤美音 (名古屋工業大学 大学院工学研究科准教授)

原田峻平 (岐阜大学 教育学部助教)

高井 厚 (市議会新庁舎建設特別委員会 委員長、市議会議員)

鈴木 登 (美濃加茂商工会議所 会頭)

宮口 誠 (社会福祉法人慈恵会 企画調査官、美濃加茂市高齢者施策等運営協議会委員)

渡邊博栄 (美濃加茂市教育委員)

長谷川尚子 (市民団体代表)

※ 委員とその所属等は、第2回委員会開催時現在

委員会会長には名城大学の海道教授が選出されました!



世界に誇れる美濃加茂らしい市役所のあり方を考えていきましょう。

最新情報はこちら

<http://www.city.minokamo.gifu.jp/2050>

